

前橋の礎・製糸業の記憶

前橋絹文化研究会

岩崎 桂治・渡辺 丈夫・川崎 始・奈良 孝美・竹下 容子・中野 泰孝・
松本 勉・栗原 勇介・丸山 磨・村上 雅紀・庭野 剛治

県都前橋の基礎を築いた絹産業の記憶を蘇らせ、その調査研究とまち歩きガイドによって前橋の歴史と文化、その魅力を多くの人に伝えていきます。今年度は、昨年 of 絹産業関係者の聞き取り調査を基に、会員が分担して前橋市街地のガイドコース入り絹産業マップとガイド解説書を作成しました。今年度末には、このマップと解説書を使用したガイド研修会を実施し、来年度早期には一般募集参加者を対象にした「前橋の絹産業まち歩きガイド」を開催する予定です。

また、今年度はコロナ禍の状況を鑑みながら、会員の絹産業への知識と解説力向上のため、蚕糸業に関する学習会や製糸・織物業に関連した見学会を実施しました。

当会は今後も引き続き前橋の絹文化の発信・普及に努めてまいります。

1 まち歩きマップ、ガイド解説書の作成

(1) 総会（4 / 24<土>・前橋市総合福祉会館）で活動事項、スケジュール等決定

- ・会の活動として、絹産業施設のまち歩きガイドを行うことを確認
- ・絹産業施設のマップ、解説書の作成及びガイドのための研修会の実施を決定
- ・上記活動に絹ラボ奨励金事業の活用を決定し、研究計画（案）承認

(2) まち歩き見学ガイド研修会

<会員のガイド基礎学習と見学会体験として実施>

- ・期 日：6 / 27（日）<コロナのため5 / 23を一か月延期>
- ・会 場：前橋市総合福祉会館
- ・参加者：9名
- ・内 容：座学（ガイドの基礎）

ガイド経験のある会員が講師となり講義（約30分）

見学会体験 前橋市総合福祉会館を発着地として
広瀬川周辺等製糸業の中心地を会員
2名が説明者としてガイドを体験（絹
の橋・交水社本社の説明、約3時間）



絹の橋・交水社本社の説明

(3) 打ち合わせ会議

第1回（7 / 17<土>）<会場：前橋市総合福祉会館、参加者：6名>

- ・マップ、解説書及びガイドコース設定のための班分け決定（3班各4名、計12名）
- ・マップ、解説書の仕様、マップ印刷会社の決定
- ・ガイドコースのルート・概要協議
- ・一般者募集のまち歩き見学会の開催検討（今年度末又は来年度早期）

＜8月中旬～10月中旬の2カ月間はコロナの影響で打ち合わせ会議が開催できなかった＞

第2回（10／24＜日＞）＜会場：前橋市総合福祉会館、参加者：8名＞

・ガイドコースのルート、解説箇所の協議・決定

なお、マップ、解説書に掲載する絹産業施設の選定には、昨年度の「前橋の製糸業に関する聞き取り調査」を十分参考にした。

次回打ち合わせ会議までの間に、全会員がマップ・解説書に掲載する割り当て施設の説明文を執筆

第3回（11／23＜火＞）＜会場：前橋市総合福祉会館、参加者：9名＞

・作成したマップ、説明文の推敲

・マップ、解説書の完成イメージに対する詳細検討

次回打ち合わせまでの間に、マップの制作では印刷会社と3回の校正、解説書では班長を中心に文章の校正を行った。また、写真の掲載に承諾が必要なものについて、群馬県発明協会の知財アドバイザー及び関係弁護士の指導を受け、各関係者から使用承諾をいただいた。また、マップの施設紹介説明文については、関係者及び本会のアドバイザー（製糸部門）、蚕糸関係研究者に推敲していただいた。

なお、解説書は会員が編集、印刷を行った。

第4回（1／16＜日＞）＜会場：前橋市総合福祉会館、参加者：7名＞

・マップ、解説書を会員に頒布し、その活用方法について検討した。

・一般者募集のガイド開催リハーサルとしてのまち歩きガイド研修会（3コース）及び本番開催（来年度早期）を検討した。

※本報告書に会員が分担して執筆したマップ掲載の絹産業施設説明文を載せます。

（4）ガイドコース班別下見歩き



説明ポイント「厩橋モニュメント」

＜マップ・解説書作成にあたりコース、説明箇所の確認、時間計測、掲載写真撮影等のため実施＞

11／2（火） 第2班 東部エリア＜中央前橋駅発着＞
参加者3名

11／3（水） 第1班 西部エリア＜前橋公園駐車場発着＞
参加者6名

11／4（木） 第3班 南部エリア＜前橋市役所発着＞
参加者4名

なお、各班の下見とも会員同士で施設の説明内容について情報交換し知識を深め合った。

（5）その他＜参考＞

前橋市主催の前橋歴史観光ガイド（シルクコース）の解説協力

・期 日：11／6（土）10時から12時の2時間

・コース：前橋市役所から前橋公園、広瀬川経由し旧安田銀行担保倉庫まで
＜当コースは本会が設定する西部エリアに近似するコース＞

・内 容：参加者9名を2班編制（5名、4名）とし、当会会員2名が各班の解説を務めた。また他に当会会員1名が参加者として聴講した。

・その他：本会には当シルクコース以外のコースで解説協力を行っている会員もおり、会員の多くがガイド解説に高い関心を持っている。

2 学習会

- ・期 日：8／8（日）
- ・会 場：前橋市中央公民館
- ・内 容：群馬の養蚕技術の歩みと現在
- ・講 師：当会アドバイザー（養蚕部門） 齋藤敏弘
- ・参加者：9名

3 見学会

第1回 織都桐生の絹織物

- ・期 日：7／4（日）
- ・見学場所：絹撚記念館、織物参考館“紫”、岩秀織物、旧金谷レース工業（株）鋸屋根工場、桐生天満宮、桐生新町重要伝統的建造物群保存地区、有鄰館、桐生歴史文化資料館、桐生織物記念館
- ・参加者：9名



織物参考館“紫”

第2回 [昨年度未実施見学] 今年度も新型コロナのため中止

- ・期 日：9／26（日）
- ・見学場所：前橋市蚕糸記念館、旧塩原蚕種（株）（塩原家住宅）

第3回 熊谷市、深谷市、本庄市の絹文化遺産

- ・期 日：11／7（日）
- ・見学場所：片倉シルク記念館、日本煉瓦製造施設、尾高惇忠生家、渋沢栄一記念館、旧渋沢邸「中の家」、旧本庄商業銀行煉瓦倉庫
- ・参加者：7名



片倉シルク記念館

4 今後の予定

来年度早期には一般募集参加者を対象にした「前橋の絹産業まち歩きガイド」を開催する予定です。今年度末にはその準備として、今回制作したマップと解説書の活用とともに、外部指導者を招いてのガイド研修会（各エリア＜コース＞ごと）を実施します。

また、来年度も引き続き会員の資質向上と解説能力向上のための学習会、見学会を実施する予定です。

「前橋の絹産業まち歩きまっぷ」掲載の絹産業施設説明（会員が分担して執筆）

[西部エリア施設]



①星野翁碑

星野長太郎（1845～1908）。勢多郡水沼村生、製糸家、県議を経て衆議院議員。明治7年（1874）水沼に最初の民間器械製糸水沼製糸場を設立した。生糸の直輸出と生糸の品質改良及び水沼学校の設立に尽力した。本碑は松方正義の題額で、大正11年（1922）建碑。

＜執筆：川崎 始＞



②共同組製糸工場跡／③共同組本部跡

共同組製糸所は明治32年（1889）、岡部・中島・中村・田中・新井・近藤・桑原の7製糸所（各70～80釜）によって始められた。その後、交水社に加盟。当初は各製糸所で製糸を行っていたが、後に大工場を建て統合。交水社の中で最大規模の製糸工場（1200釜－昭和元年）。

＜執筆：村上 雅紀＞

「前橋商工案内」（大正4年・前橋商工会議所発行）



④丸大製糸（株）

昭和4年（1929）創立の丸大繭糸合名会社を前身に、昭和26年（1951）に設立。玉繭から糸をとる玉糸製糸としては全国最大規模の工場。最盛期の昭和38年（1963）には玉糸釜数約250釜で、全国の玉糸の1割を生産した。また、玉糸を原料とする玉絹（裏地）も生産した。

＜執筆：川崎 始＞



⑤前橋乾繭取引所跡／⑥旧安田銀行担保倉庫

大正2年（1913）、群馬商業銀行前橋支店細ヶ澤出張所の担保倉庫として繭乾燥場とともに竣工。戦前は銀行の担保倉庫、戦後は前橋乾繭取引所（倉庫北側に昭和27年開設）に対応する倉庫として主に乾繭の保管を行ってきた。現在は一般倉庫や催事場として利用されている。

＜執筆：村上 雅紀＞



⑦器械製糸所跡碑

藩営前橋製糸所は明治3年（1870）7月、日本最初の洋式器械製糸工場。横浜開港後、前橋藩は外国に負けない品質や価格の糸をつくるためイタリア式の器械を導入し、スイス人ミューラーの技術指導を受けた。動力は広瀬川を利用した水車。 <執筆：栗原 勇介>



⑧厩橋モニュメント

広瀬川にかかる橋「厩橋」の南側にある街頭モニュメント。提糸（さげいと）と生糸の取り枠を形取っている。前橋の生糸は安政6年（1859）の横浜開港の頃より盛んにヨーロッパに輸出された。独特の束装方法・提糸は「マエバシ」と呼ばれ高く評価された。 <執筆：竹下 容子>

[東部エリア施設]



「ふるさとの思い出写真集 前橋」(昭和54年・図書刊行会)

①交水社本社跡

明治11年(1878)、士族授産を目的に発足した精糸原社が基となり、高須泉平らが精糸交水社を設立。明治22年製糸器械60台を導入。明治44年は前橋の生糸生産額の78%生産。大正14年(1925)の生糸輸出量は全国5位。昭和35年(1960)に解散(操業84年間)。
〈執筆:岩崎 桂治〉



②交水堰

交水堰は広瀬川の上流から15番目の堰で「十五本堰」とも言われる。近くに前橋を代表する交水社の製糸工場で使用した水の取水口が今も残る。製糸業は、繭の煮沸等で大量の水を必要とするので、堰で水位を上げこの口より自然流下で工場内に取水した。
〈執筆:松本 勉〉



「前橋繁昌記」(明治24年)

③昇立社跡

明治12年(1879)に下村善太郎が創立した座繰製糸会社。明治13年は精糸原社、交水社に次ぐ前橋第3位の生糸生産量を上げる。最盛期の明治29年(1896)には、工女830名、釜数(座繰り)750釜で前橋有数の改良座繰会社となったが、明治38年(1905)に閉場した。
〈執筆:岩崎 桂治〉



④愛宕神社「繭市場設立の額」

当初この額は旧安田銀行担保倉庫北側の八坂神社に祀られていたが、平成13年(2001)に愛宕神社に合祀される際に社殿東側に掲げられた。この額には明治17年(1884)に町の有志が高崎の糸商人とともに細ヶ沢町(現住吉町)に繭市場を創立したと記されている。
〈執筆:松本 勉〉



⑤上毛倉庫若宮営業所跡

上毛倉庫の若宮営業所として大正6年(1917)12月に建築。繭や生糸を収納する2階建て煉瓦倉庫で、煉瓦はイギリス積み、屋根は切り妻造り。大きさは南北10.9m、東西32.7m。内部は中央の防火壁で東西2室に分かれている。平成15年(2003)12月に解体された。
〈執筆:中野 泰孝〉



⑥旧奈良製糸煉瓦倉庫

大正8年(1919)に生糸保管倉庫として建設された。大きさは東西15.24m、南北5.245m、高さは約9.1mの2階建て。煉瓦はイギリス積みで、腰壁や妻面の焼き過ぎ煉瓦や丸窓のデザインに大正建築の装飾美が覗える。東側面には空襲で焼けた隣り蔵の焦げ痕がある。
〈執筆:中野 泰孝〉

[南部エリア施設]



①下村善太郎像

下村善太郎は文政10年（1827）に今の前橋市本町の商家に生まれた。善太郎は繭・生糸の取引で得た財を惜しみなく郷土前橋のために使った。明治25年（1892）に初代市長に就任するも翌年病を得て帰らぬ人となる。昭和58年（1983）9月、赤城国体時に銅像除幕式。

<執筆：奈良 孝美>



②旧勝山社煉瓦蔵

製糸業・織物業で栄えた勝山社の倉庫として明治35年（1902）に建造された。その後、いくつかの銀行が所有し、主に生糸の保管庫として活用された。生糸の町として栄えた前橋市を象徴する貴重な煉瓦造りの建造物。国登録有形文化財。

<執筆：奈良 孝美>



③前橋生糸改所跡

文久元年（1861）、前橋の生糸商人が扱う生糸の検査所として設置。明治11年（1878）に新たに2階建て西洋建築の建物に建て替えられ、同年の天皇行幸の際には明治天皇がご宿泊された。なお、前橋プラザ元気21の建物前に生糸改め所跡の碑がある。

<執筆：丸山 磨>



④上毛倉庫（株）田中町レンガ倉庫

上毛倉庫は、江原芳平によって明治28年（1895）、田中町（現表町）に設立。明治29年繭糸保管の煉瓦倉庫3棟にて業務を開始した。戦災復興事業による道路拡幅のため1棟を解体撤去。現在、イギリス積煉瓦倉庫が2棟あり、現役で倉庫として稼働している。

<執筆：庭野 剛治>



⑤前橋駅

明治17年（1884）に日本鉄道が利根川西岸の石倉町に前橋駅を開業させた。明治22年（1889）、両毛鉄道により利根川の架橋が完成し、前橋駅は現在地に移った。製糸業隆盛時には貨車による繭・生糸の輸送の他、年の暮れには帰郷する工女さんで賑わった。

<執筆：奈良 孝美>

「写真集前橋」（平成4年・前橋市）



⑥下村善太郎の墓

下村善太郎は文政10年（1827）、下村重右衛門の子として生まれる。鋭い洞察力と先見性により前橋と横浜間の生糸商人として成功し、県庁誘致等に尽力し県都前橋の礎を築いた。前橋初代市長在任中の明治26年（1893）、67歳の生涯を閉じた。

<執筆：丸山 磨>

[その他の施設]



丸登製糸（株）提供

①丸登製糸（株）

明治21年（1888）、現在の長野県岡谷市で創業。創業者は片倉製糸と同郷で、大正4年（1915）に前橋に座繰製糸600余釜の丸ト組前橋製糸所として進出した。繭の確保と輸送の便を図るため繭の大産地・前橋に進出した。昭和57年（1982）に生糸生産を中止した。

<執筆：川崎 始>



グンゼ（株）提供

②グンゼ（株）／丸二製糸（株）跡

郡是製糸は明治29年（1896）に京都で創業。大正11年（1922）、前橋市紅雲町に繭乾燥場を設置。昭和25年（1950）に交水社国領工場（丸二製糸所）を買収し製糸を開始。昭和44年（1969）には同社新鋭自動機96台を導入し、年間75tの繭を収集。昭和57年工場を閉鎖した。

<執筆：渡辺 丈夫>



③（協）前橋乾燥場跡

昭和27年（1952）、才川町（現若宮町）に繭及び木材の乾燥場として開設。その後、木材の乾燥は中止されたが、昭和40年代からの繭乾燥事業の拡大に伴い、昭和58年（1983）に最新型繭乾燥機を導入して西大室町に移転したが、平成7年には需要が減り閉鎖した。

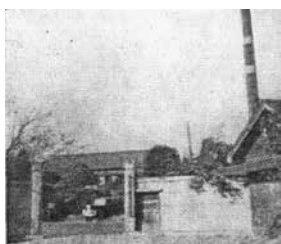
<執筆：中野 泰孝>



④栢野撚糸工場

現在も前橋市朝日町で操業している市内唯一の絹糸を扱う撚糸工場。明治34年（1901）に石川県出身の栢野豊作が会社を興し、現在は4代目。平成30年（2018）3月に前橋商工会議所の「創業100年以上企業顕彰」（109年目）を受賞した伝統のある撚糸工場。

<執筆：中野 泰孝>

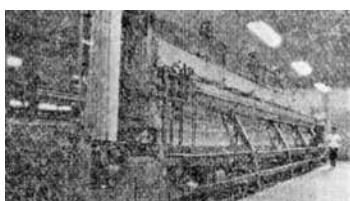


「群馬県蚕糸業史」（昭和30年）

⑤金井製糸所跡

明治44年（1911）、前橋市榎町で玉糸製糸個人経営として創業。昭和11年（1936）に交水社の百軒町工場を買収し、立繰機180台を設置して株式会社に組織替えする。戦後は市内新町で操業し、昭和22年に多条機216台、年間6tの生糸を生産するも昭和35年（1960）倒産。

<執筆：岩崎 桂治>



「前橋商工会議所六十年史」（昭和33年）

⑥上毛撚糸（株）跡

大正元年（1912）に伊勢崎市で創業。昭和12年（1937）、前橋市六供工場を開設。他に前橋市内、県内外の数カ所に工場、横浜に営業所があった。六供工場は撚糸から刺繍・レースに代えた昭和48年でも従業員は300名以上いたが、昭和51年（1976）に工場は閉鎖した。

<執筆：岩崎 桂治>